

2023 春季生活闘争における J R 7 単組の妥結結果を踏まえてのコメント

2023 年 3 月 17 日

日本鉄道労働組合連合会（J R 連合）

3 月 10 日以降 17 日にかけて、J R 7 単組は、熟議のうえ総意で決定した J R 連合の統一要求方針に基づき取り組みを展開し、会社と真摯に交渉を積み重ね、大きな成果を引き出した。

私たちを取り巻く環境は、コロナ禍第 8 波に加え、原材料高・資源高や急激な円安、物価高など多くの重たい課題に直面し、ウクライナ戦禍の長期化等も先行きを不透明にしている。J R 会社の業績は人流の回復とともに改善しつつあるが、長期債務の増加・動力費負担の増大等が経営を圧迫している。また、離職も増加しており、2023 春季生活闘争は様々な変数が複雑に交錯する未曾有の情勢下での取り組みとなった。

J R 連合は 2 月 1 日の第 35 回中央委員会で、「2023 春季生活闘争で『未来づくり』の取り組みを深化させ 働きの価値に見合った魅力ある賃金・労働条件と、働き方の見直しを実現しよう！」をスローガンとする闘争方針を満場一致で決定した。賃金面では「定期昇給の完全実施」、「労働条件改善原資としての月例賃金総額 3%・うち 3,000 円の純ベア実施」の要求を掲げ、諸手当や諸制度および働き方等の改善を含む総合生活改善を統一要求とした。中長期的な視点から「未来づくり」「継続的な賃上げ」を志向し、物価上昇への対応も念頭におきつつ、J R 産業に集うすべての仲間の賃金・各種労働条件を「働きの価値に見合った水準」へと引き上げる取り組みを展開することとした。

こうした中、J R 7 単組は、職場の最前線で変化に対応し奮闘する組合員と家族の負託に応えるため、健全な労使関係を基礎とする労使交渉を真摯に積み重ねてきた。結果、J R 7 単組は定期昇給の完全実施を確保したほか、J R 西労組のベア要求満額回答の獲得を皮切りに、J R 北労組、J R E ユニオン、J R 東海ユニオン、J R 四国労組、J R 九州労組、貨物鉄産労がベアを獲得したほか、諸手当・制度の改善や多様な働き方の整備など総合生活改善に資する、そして離職防止・採用競争力強化に繋がる多くの成果を引き出した。経営体力が低下した厳しい状況下においても、連合構成組織の一員・J R の責任産別として今次闘争における一定の責務を果たし得たと認識する。

今次闘争は、ヤマ場に先んじて大手企業が人材確保のために賃上げの P R 合戦を行う様相を呈する展開となった。初のベア満額回答などといった成果は高く評価しつつも、賃上げに非常に慎重な従来の姿勢からの転換が一過性の動機によるものであってはならない。J R 連合は「目標賃金への到達」に向け継続的な賃上げを求める方針を一貫して提起してきたが、この方針をあらためて労使で共有したい。

J R 産業は大きな転換期を迎えている。今後の持続的な成長のためには、働く者の主体的な参画が不可欠であり、安心して意欲高く働き続けられる労働条件・環境を労使で築いていかなければならない。そのためにも、J R 各社には、引き続き積極的かつ継続的な賃上げと総合生活改善を強く要請する。

今後、交渉が本格的にスタートするグループ労使においては、多くの加盟単組が堂々とベア要求を掲げ、今次闘争に臨んでいる。グループ会社においては、より積極的な賃上げ・労働条件改善を早期に回答するよう求める。J R 連合はエリア連合と連携し、グループ交渉を支援する取り組みを強化するとともに、労働政策に産業政策をリンクさせ、連合や交運労協に集う仲間とともに産業の回復とさらなる発展をめざす取り組みを進めていく。